

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	札幌市立新琴似北中学校 第1学年 134名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（道徳） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	・夢の実現に向かって努力した人からの話を通して、自分の将来について考えるきっかけとし、自己の生き方や社会との結び付きを考える。 ・パラアスリートから直接指導を受け、競技を体験することで、主体的・対話的に取り組む。 ・他教科における既習事項を生かして、共生社会について自分の考えをもつ。 ・障がいのある人や、自分と感じ方や考え方が異なる人にも、公正・公平に接する態度を身に付ける。
5 取組内容	○指導計画【4 時間扱い】 ①学活の時間（1 時間） ねらいや流れの確認、VTR視聴等による共生社会についての共通理解、講師根木慎志氏の略歴や競技歴などを紹介する。 ②「あすチャレ！スクール」（道徳）（2時間） パラアスリートによる講話及び体験学習パラスポーツデモンストラーションパラスポーツ体験（代表生徒体験）講話を行い、PTA にも公開する。 ③「あすチャレ！スクール」の振り返りとまとめ（道徳）（1 時間） 学んだことをまとめるとともに、夢の実現に向けて大切に考えることを交流する。 ○取組の様子 ①車いすバスケットボールデモンストラーションでは、根木氏が操作の説明・実演をした。シュートデモンストラーションでは、生徒に声をかけ盛り上げて会場の一体感を作り上げてくれた。



	 また、生徒・教師が参加して5対5のゲーム形式で車いすバスケットボールを体験した。白熱したゲームになり大変盛り上がった。 ②講師による講話 講話の中で伝えたいメッセージ ○「他者のことを自分ごととして考える心」 ○「障がいとはなにか」 ○「可能性に挑戦する勇気」 ○「夢や目標を持つ力」 ○「自分自身にとっての明日への挑戦とは」などを軸に、ユーモアを交えて熱くに生徒に語り掛けてくださった。  ・最後にスタッフより折り紙のプレゼントを頂いた。
6 主な成果	・夢をもち、あきらめずに取り組むことの大切さや、スポーツを通じて心身を向上させ、文化や国籍の違いを超えて友情やフェアプレーの精神が育まれることなどを話していただいた。 ・目標のために小さなことを毎日コツコツと努力することが大切。 ・つらいときには仲間や友達、家族が支えになってくれる人がいること。 子どもに問いかけながら、たくさんのメッセージ、「夢」をもつことの大切さ、それに向かって努力することの大切を伝えていただいた。こうした一つ一つのメッセージを生徒は真剣な眼差しで聴き、しっかりと心で受け止めていた。
7 実践において工夫した点	・生徒が講演会の意義・ねらいを理解できるよう、丁寧に確認を行った。 ・社会科や保健体育科との関連を図った。 ・保護者への案内の発出や学校だより、ホームページで講演会の様子を発信した。
8 主な課題等	・「パラリンピック特別講演会」として、PTAにも案内を出したが参加者は少なかった。講演日の決定が遅かったこともあるが、早めの周知をすべきだった。また、地域へも案内を出して、参観していただき、家庭・地域・学校をつなげる機会とすることで、より濃い学びの機会になると考える。 ・事前打ち合わせ等の時間的な余裕がなく万全の準備はできなかった。教科との連携も十分にはできなかった。事後学習では感想を書く時間は設けたが、互いの意見交流をすることは不十分だった。
9 今後の取組について	パラリンピアンを招いて講演会は今年で2年目となったが、どちらも講話などから講師の生き方に触れ、今の自分を見直すきっかけになり、これからの生活を前向きに進んでいく力を与えていただいた。限られた時間であったが、力強い魂のこもった言葉から、たくさんのメッセージと感動をいただいた、すばらしい講演会であった。次年度も継続して取り組みたいと考えている。